

## 地域医療発展へアイデア

# 地元中3生11人発表

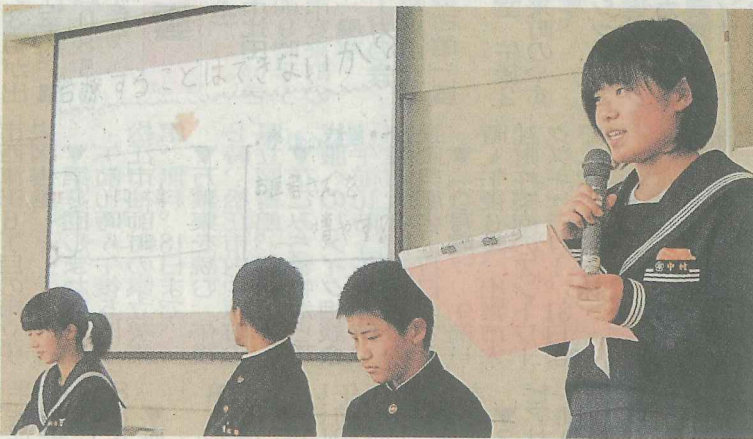


吉賀町六日市の六日市病院の開院記念式典が11日、近くの基幹集落センターであり、地元六日市中学校の3年生11人が、「吉賀町の未来の医療について」と題し、地域医療の発展を目指した施策や将来像を発表した。

同病院は、救急救命講習や地域医療をテーマにした授業で同校に講師を派遣している。記念式典での生徒の発表を依頼し、初めて実施した。生徒は、事前学習で学んだ医師・看護師の慢性的な不足、

## 六日市病院 開院記念式典で

搬送患者の77%が65歳以上である町内の現状を踏まえ、1人ずつアイデアを披露。地元勤務を条件にした海外留学補助金制度の創設による医師の育成をはじめ、在宅患者の異常を感じできる医療用リストバンドやナースコール機器の改良などについて説明した。学校や公民館など身近な施設に応急処置や相談ができる医療機能を持たせることを提案した、中村涼香さん(14)は「発表を通じて、吉賀の医療について一歩踏み込んで考えられた」と話した。式典は、1981年5月11



日の開院日を記念して毎年開いており、医療従事者ら約150人が出席した。

吉賀町の将来の医療をテーマに提案する生徒